

JSECファイナリスト、優等賞受賞（科学部の研究）

スギ生木樹皮に生育する粘菌は環境指標生物になるか

～地域の大気環境と粘菌群集との関係～ 2015年12月15日発行

全国ファイナリスト審査会報告

日程:平成27年12月13日(土)～14日(日) 1泊2日 場所:東京台場 科学未来館

高校生を対象とした日本最大の科学コンテスト

全国からエントリーした科学研究論文が審査された上で、30点が選ばれる。2日間の厳しいポスター発表審査を受け、科学未来館で一般公開される。(朝日新聞社主催)



図1. 展示ブースと発表する生徒、5分程度で簡潔な説明が求められる。審査員が数回入れ替わり審査をする。

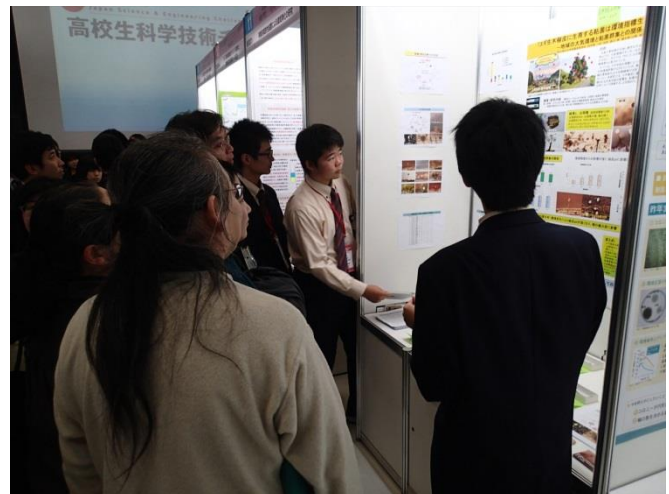


図2. 一般公開で多くの入場者に説明をする生徒、粘菌に関する研究は他にもあり、人気の生物であるが、研究には競争が存在することが分かった。



図3. 表彰式 左後列が本校の生徒、今年も入賞を逃した。本校の研究は、着眼がよく前例のない研究として評価を受けたが、環境モニター生物として研究をもっと深めることが期待されるとされた。



図4. ファイナリストの3人
全国256件の研究論文から、科学部での研究が上位30件に選ばれた。進学理大コース1年
山崎裕弥君, 矢吹直之君, 南耕太朗君

生徒の感想

この2日間で、高校生の科学研究は全国のレベルが高いと感じた。自分たちの研究には自信があったが、他校の生徒のプレゼンは格段に優れ、明快な説明をはきはきとしていることに驚いた。大学の先生に説明するのは、それなりの訓練がいると思った。入賞するとアメリカでのISEF世界大会派遣があるので、これからもがんばりたい。

審査員評価:これまで一般に行われてきたスギの状態から環境の変化を計測するのではなく、微生物の粘菌を観察することによって、より早期の推定ができることを示したのは評価できる面白い研究です。